

保育者養成校におけるコード奏法活用に関する一考察

股木 裕美子

Consideration on Chord Teaching Method at Training School for Childcare Workers

Yumiko MATAKI

コード奏が、保育者育成校の教育現場で普及している。本論では、コード奏法指導を前提としない主要な幼児の歌唱教材所収の歌唱曲の約99%がC, F, G, D各メジャーの調性からなり、かつ、代表的な歌唱曲に関しては3コードおよび「3コード+ α 型」のコードパターンからなることを明らかにした。この結果に即して、通常用いられる教材を用いたコード奏法の活用法を論述し、学生の進度に応じた3段階の指導方法、譜例を示して提案した。

1. はじめに

大学、短期大学、専門学校など、保育者を養成する機関で学ぶ学生にとって、ピアノ演奏法の習得は、最も重要な課題である。しかし、学生たちの中にはピアノ経験者もピアノ初心者も含まれており、演奏レベルにばらつきがあるのが現状である。ピアノ経験者はクラシック音楽のピアノ奏法を基本として学習してきており、音符から楽譜を読む作業を通じ音楽を組み立てる過程をある程度体得しているため、幼児向け唱歌の伴奏譜をスムーズに読んで伴奏することができる。しかし、ピアノ初心者にとって、限られた期間の中でピアノ技能を習得することは容易でない。

他方、今日、歌謡曲、アニメの主題歌、ドラマや映画の主題曲などがピアノ譜に編曲され、数多く出版されている。また、こうした身近な音楽が、学校教育の教科書や合唱曲にも取り込まれており、誰でも演奏でき、多様な音楽に親しめる環境が整ってきている。こうしたピアノ譜には、ピアノ初級者でも弾けるように工夫や配慮が施されているが、その多くには「コードネーム」が記載されている。コードネームは、和音の表記法のひとつであり、歌や演奏のための簡単な伴奏として使うこともでき、また、コード和音をベースにして変化をつけて自由な演奏として展開することもできる。

近年、このようなコードネームに基づくコード奏法を、ピアノ初級者の指導に取り入れようとする試みが数多く提案されている。例えば、松宮と野田は、ツェルニー30番を例として、コードネームを用いた子供用ピアノ指導によって子供たちのピアノに対する好奇心を高め、

内在する能力をひきだすことを提案した。¹⁾ 松宮らの提言は、クラシック音楽至上主義のピアノ指導に対して一石を投じ、さまざまなジャンルで音楽にかかわれる子どもを育成することの重要性を説いた点で示唆に富んでいる。この示唆は、子どもたちの音楽教育にとどまらず、ピアノ伴奏技術を修得しなければならない保育者の養成課程にも活用できる。小笠原は、ピアノ初心者の学生が教育実習において最低限の歌唱指導を行えるようにするための伴奏指導法として、カデンツの反復練習などにコード奏法を活用することを提案した。²⁾ 紙屋と後藤は、保育者のピアノ技量をカバーするだけでなく、保育現場において、簡易伴奏をアレンジすることによって幼児たちが示す反応に注目し、簡易伴奏法と幼児教育いう2つの視点から、コード奏法の効果を論じた。³⁾ 白石と中村は、保育者養成校における音楽指導法としてコード奏法をとりいれた効果を、フィルードワーク的に論じ、コード奏法を用いた指導法の有効性を検証した。⁴⁾

このように、コード奏法による音楽教育や保育者養成指導の有効性は認められているが、教育現場で用いられる幼児用歌唱教材は、必ずしもコード奏法を適用して指導するのに十分なツールにはなっていない。

本論文では、一般的に利用されている教材を使ってコード奏法指導を進めるための具体的な指針と方法を明確にすることを目的として、コードネームの観点から、幼児用歌唱教材の分析を行い、この分析結果に即して、テキストや楽曲に対して、具体的にコード奏法をどのように導入すべきかを考察する。あわせて、保育者養成校の学生の進度に応じたコード奏法の具体的な指導方法について論述する。最後に、コード奏法を導入したピアノ伴奏指導を通じて得られる効果について論じるとともに、コード奏法を活用する上での留意すべき点についても言及する。

2. 幼児の歌唱教材に見られる調性とコード

2.1 幼児の歌唱教材に見られる調性

保育者養成校で用いられるテキストとして、「幼児のための音楽教育」(教育芸術社)、「こどものうた伴奏集 I, II」(自由現代社)、「保育のうた・こどものうた120」(シンコーミュージック・エンターテイメント社)、「マイ・レパートリー」(ヤマハミュージックメディア社)を選び、所収楽曲の調性を分類した。但しわらべ歌は除外した。

図1に、分類した結果を、調性ごとの構成比で示した。同一曲の調性がテキストによって異なる場合、「幼児のための音楽教育」に準拠した。図1から、Cメジャーが半分以上(合算値として62%)を占めて最も多く、2番目に多いFメジャー(同27%)とあわせると、全楽曲の89%を占めていることがわかる。このことは、コード奏法の基本的な練習法として、Cメジャーから入り、次いでFメジャーを学ぶことが実践的観点からは効果的であることを示

している。Cメジャーには、#，b記号がつかないので，習得しやすいことも期待できる。

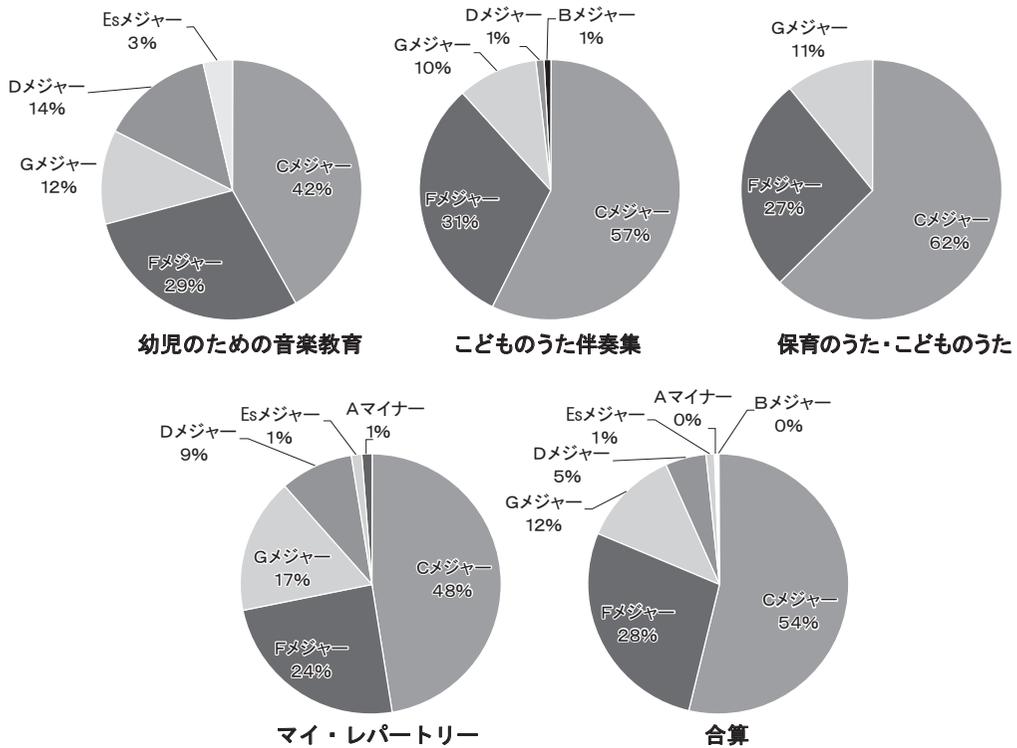


図1. 幼児の歌唱教材所収楽曲の調性構成比

2.2 楽曲の調性とコードの構成

コードの基本形は「3コード（主要3和音）」と呼ばれ，音階のI，IV，V度上にできるコードであり，CメジャーではC，F，G₇またはC，F，Gコードを指す。3コードは楽曲の柱になる大切なコードで，簡単な楽曲であれば，3コードだけで伴奏することができる。

2.1節で示したように，CメジャーとFメジャーが主要な調性で，GメジャーとDメジャーが続く。そこで，典型的な幼児教育音楽の中から，Cメジャー，Fメジャー，Gメジャー，Dメジャーの歌を選び出し，どのようなコードから構成されているかを分析した。その結果を，具体的な曲名とともに表1～4に示す。

楽曲によっては，3コードに別のコード（ α ）が付加されるものがある。表1～4には，3コードのみで演奏できるもの以外に，別コード α が1～3のものも併記してまとめた。

表1. Cメジャーの歌のコード構成

3コード型

構成コード	3コードのみ
大きな栗の木の下で、おつかいアリさん、こいのぼり、ぶんぶんぶん、森のくまさん、うんどうかい、やきいもグーチーパー、とんぼのメガネ、アイアイ、あく手でこんにちは、おかえりのうた、手をたたきましょう、むすんでひらいて、小犬のマーチ、どんぐりころころ	

3コード型+ α 型

構成コード	3コード+ D_m
おはようのうた、さよならのうた、夕やけこやけ、おんまはみんな、うちゅうせんのうた	
構成コード	3コード+ C_7
せんせいとおともだち	
構成コード	3コード+ $G_{dim}^\#$
思い出のアルバム	

3コード+3 α 型

構成コード	3コード+ D_m, D_7, A_7
すてきなパパ	
構成コード	3コード+ D_m, F_m, D_7
アイアイ	
構成コード	3コード+ D_m, E_m, A_m
おもちゃのチャチャチャ	

表2. Fメジャーの歌のコード構成

3コード型

構成コード	3コードのみ
ブンブンブン、山の音楽家、たなばたさま、キラキラ星、ありさんのお話、雪、お正月、やぎさんゆうびん、ぞうさん	

3コード+ α 型

構成コード	3コード+ G_m
Happy birthday to you, バスごっこ、ゆきのペンキ屋さん	
構成コード	3コード+ G_7
ジングルベル	

3コード+2 α 型

構成コード	3コード+ $G_m, G_m^{(b5)}$
おばけなんてないさ	
構成コード	3コード+ G_m, D_m
かわいいかくれんぼ	
構成コード	3コード+ G_{m7}, D_{m7}
1年生になったら	

3コード+3 α 型

構成コード	3コード+ G_m, D, B_{dim}
あわてんぼうのサンタクロース	

表3.Gメジャーの歌のコード構成

3コード型

構成コード	3コードのみ
うみ, ゆかいな牧場, 動物園へ行こう, アルプス一万尺	

3コード+ α 型

構成コード	3コード+ E_m
きよしこの夜	
構成コード	3コード+ B_7
線路はつづくよどこまでも	
構成コード	3コード+ G_7
子どもの世界	
構成コード	3コード+ A_m
ふしぎなポケット	

3コード+3 α 型

構成コード	3コード+ E_m, B_m, A_7
にじ	

表4. Dメジャーの歌のコード構成

3コード型

構成コード	3コードのみ
チューリップ, ちょうちょう, あく手でこんにちは, とけいのうた, めだかのがっこう	

3コード+ α 型

構成コード	3コード+E
おつかいありさん	

3コード+2 α 型

構成コード	3コード+E, E _m
豆まき	

表1～4から、幼児教育で歌われる曲の多くが3コードだけで演奏できるので、保育者養成校においては、主要な調性に関して3コードを中心に指導し、さらに「3コード+ α 型」を指導することによって、幼児音楽教育の中で現れる楽曲の大部分を、コード奏法をベースとする基本的なピアノ奏法として比較的容易に習得させ得るといえる。

3. コード奏法習得のための実践的学習方法の提案

前章では、幼児教育の中に現れる楽曲を、調性とコードの組み合わせという面から分析し、CメジャーとFメジャーの3コード型と3コード+ α 型に関するコード奏法を指導することが効果的であることを示唆した。本章では、この視点に立って、具体的な指導法の提案を試みる。なお、保育者養成校では、多くの場合学生ひとりひとりの進度(到達度)が異なるので、現実的には、進度にあわせた指導法が必要になる。本章では、

第1段階：コードに慣れ親しむ

第2段階：コード奏法の基本を習得する（3コード主体のコード奏法の習得）

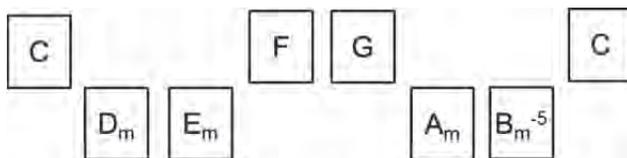
第3段階：より進んだコード奏法を習得する（3コード+ α 型のコード奏法の習得）

の3段階に分けて、各段階における具体的かつ実践的な指導法を述べる。

3.1 第1段階における指導法

この段階では、学生がコードに慣れ親しむことができるように指導することが肝要である。指導の流れとして、以下のように展開する。

- (1) 音階のドレミファソラシドの英語読み (C, D, E, F, G, A, B, C) を説明する。
- (2) C, D, E, F, G, A, B, Cの音上に和音を作り, C, D_m, E_m, F, G, A_m, B_m⁻⁵, C と弾く。この時, 和音のカードを下図のように配列して利用すると, より視覚的に理解しやすくなる。



このカード配列による指導の中で, 以下についても説明する。

- (i) 上段のカードはメジャー (長調)で明るい響きをもち, 下段のカードはマイナー (短調)で暗い響きである。
- (ii) 上段のカードは, Cメジャーの3コードであり, 一番基本的な連結である。
- (iii) 下段のコードはサブコードとも呼び, 音階のII, III, VI, VII度上にでき, 上述3コードが木の幹だとすれば, サブコードは, 幹から分かれた枝葉の役割である。

なお, コード奏法を習得し始める初期の段階では, サブコードについてあまり詳しくとりあげないほうが良い。

- (3) \boxed{C} はC, E, G, \boxed{F} はF, A, C, \boxed{G} はG, B, Dという基本3和音を弾いてみせる。ただし, これにあまり時間を費やさず, \boxed{C} はC, E, G, \boxed{F} はC, F, A, \boxed{G} は $\boxed{G_7}$ としてB, F, Gの形の和音を書き表し (図2の譜面を参照), その形を実際に弾いてみる。図2に示したI-IV-V-Iのカデンツを繰り返し練習し, コードと和音の関係に慣れることが重要である。調整については, 図2に示す4つまでとする。
- (4) 7 (セブンス) のコードについては, この段階で説明しておく必要がある。GとG₇, CとC₇, DとD₇, AとA₇の基本形を簡単に説明し, セブンスとなる音階の第VII音を加えた響きを聴かせた上で, 実際に, $\boxed{G_7}$ は, B, F, G, $\boxed{C_7}$ はE, B^b, C, $\boxed{D_7}$ はF[#], C, D, $\boxed{A_7}$ はC[#], G, Aの形を, 各和音共通である [5, 2, 1]の指使いで練習する。

Cメジャー
C F G₇ C C F G C

Fメジャー
F B^b C₇ F F B^b C F

Dメジャー
D G A₇ D D G A D

Gメジャー
G C D₇ G G C D G

図2. 主要調性における3コード(カデンツ)

3.2 第2段階における指導法

この段階では、実際に3コード主体の歌を伴奏し、コード奏法を実践的に習得することを目的として指導する。

初めに、歌唱教材の中から、Cメジャーの3コードのみで伴奏できる曲を選び、実際に、左手でコードを和音にして演奏する。このような曲としては、表1にまとめられたものが参考にできる。譜例として、「春がきた」の伴奏コードを図3に示す。

春がきた
C G₇ C F C G₇ C

図3. 3コードのみからなるCメジャー曲の譜例

Cメジャーでの3コード伴奏曲を数曲練習して慣れてきたら、Fメジャー (bが1つ)、Gメジャー (#が1つ)、Dメジャー (#が2つ)へと展開していく。このような学習を通じて、

- (1) 3コードが絵画でいう三原色のような基本構成であること。
- (2) 3コードの習得によって、多くの歌唱曲を伴奏できること。
- (3) 表5に示すように、調性が異なっても、基本構成や演奏の基本は共通していること。

を体得できる。

表 5.3 コードで伴奏できる歌唱曲のコードパターン

コード	C	F	G ₇	C
度数	I	IV	V ₇	I
指使い	1 3 5	1 2 5	1 2 5	1 3 5

コード	F	B ^b	C ₇	F
度数	I	IV	V ₇	I
指使い	1 3 5	1 2 5	1 2 5	1 3 5

コード	G	C	D ₇	G
度数	I	IV	V ₇	I
指使い	1 3 5	1 2 5	1 2 5	1 3 5

コード	D	G	A ₇	D
度数	I	IV	V ₇	I
指使い	1 3 5	1 2 5	1 2 5	1 3 5

3.3 第3段階における指導法

3コードの学習進度が速い学生に対しては、「3コード+ α 型」のコードパターンの練習を通じて、3コード以外のコードが加わることによって、楽曲の展開に広がりが見られることを体得できるよう指導する。

Cメジャー、Fメジャー、Gメジャー、Dメジャーの主要4調性に関して、「3コード+ α 型」の歌唱曲例は、すでに表1～4に示した。前節の第2段階でも示したように、Cメジャー→Fメジャー→Gメジャー→Dメジャーの順番で、具体的な歌唱曲を用いて「3コード+ α 型」のパターンを習得することが望ましい。

例えば、表1に示したCメジャーの「3コード+ α 型」のうち、「3コード+D_m型」であれば、コードパターンは、C-F-D_m-G₇-Cの基本パターンからなる(図4)。

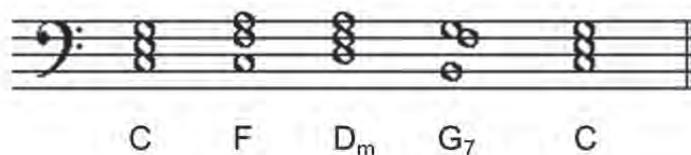


図4. 「Cメジャー3コード+D_m型」のコードパターン

このパターンを練習した上で、具体的な歌唱曲にあてはめる練習をする。図4に、譜例を示す。上記練習によって、3コード以外に入っている別コード(D_m)が1つ入っている場合の基本構成を弾くことができれば、実際の歌唱曲にも応用でき、かつ楽曲の展開に広がりが見られていることを体感できる。

タヤけこやけ

C G₇ C F G₇ C F C D_m G₇ C D_m C G₇ C

同様にして、

Cメジャー	3コード+C ₇ 型	C - C ₇ - F - G ₇ - C
	3コード+G [#] _{dim} 型	C - G [#] _{dim} - F - G ₇ - C
Fメジャー	3コード+G _m 型	F - B ^b - G _m - C ₇ - F
Gメジャー	3コード+E _m 型	G - E _m - C - D ₇ - G
	3コード+B ₇ 型	G - B ₇ - C - D ₇ - G
	3コード+G ₇ 型	G - G ₇ - C - D ₇ - G
	3コード+A _m 型	G - A _m - C - D ₇ - G
Dメジャー	3コード+E _m 型	D - G - E _m - A ₇ - D

の基本コードパターンの学習に進むことにより、コード伴奏法の基本を修得することができる。

以上、3段階に分けてコード奏法の具体的な指導法を提案したが、指導現場での経験から、以下の2点が、指導効果を高める上で重要であると考ええる。

- (1) 具体的な歌唱曲を弾く場合、まず「左手+歌」で練習する。最終的には、両手であわせて伴奏するが、「左手+歌」の練習により、歌のどこで和音が変わるか、歌をどのような和声支えているかを体で憶えることができるので、両手での演奏にスムーズに移行できる。
- (2) 左手のコードは、基本的に1小節に1つとする。コード奏法に慣れるまでは、基本形を手に憶えさせることが最も重要である。コードによる形の変化や工夫はせず、全音符や2分音符を使うことが好ましい。

4. コード奏法活用の効果と留意点

4.1 効果およびメリット

これまで分析・考察してきた観点から、コード奏法活用の効果とメリットは、以下のよう整理できる。

- (1) 歌唱曲の旋律を支える和声と、和声が曲の中でどのように変化していくのかを、大きなまとまりとして感じ取ることができる。
- (2) 演奏しやすい形に連結した3コードを憶えることによって、ピアノ初級者であっても、歌唱曲の旋律を、滞ることなく演奏できる。
- (3) 幼児指導用歌唱曲のほとんどが、Cメジャー、Fメジャー、Gメジャー、Dメジャーの4つの調性に基づく3コードおよび3コード+ α 型コードで構成されているので、そのコードパターンを習得することによって、伴奏に対する苦手意識を軽減できる。
- (4) ピアノ初級者は、音符を読んで演奏につなげるまで、ある程度の時間を要する。その読譜の段階において、3つの音のかたまりとして和音を感じることににより、へ音記号であっても読譜しやすくなる。
- (5) 曲全体の構成を、練習の早い段階で体感できる。その結果、歌唱曲ひとつひとつの音楽性を感じ取り、よりよい伴奏につなげられる。

4.2 コード奏法指導上の留意点

筆者は、特にピアノ初級者の学生が、楽曲に現れた細かい和声の進行を読み取れず、弾くことがおぼつかないまま楽譜に振り回され、旋律に集中できない姿を何度か目のあたりにしたので、楽曲がもつ音楽性を十分感じ取って幼児音楽教育に携われる教育者として巣立っていくための一助として、コード奏法を活用することが有効であると考えている。しかし、決して「はじめにコード奏法ありき」とは考えていないし、コード奏法が万能であるとも考えていない。むしろ、コード奏法特有の問題が潜在していると考えている。本論文の最後にあたって、保育者養成校においてコード奏法による指導で陥りやすい問題点を揭示し、学生たちを指導するにあたってコード奏法を活用する上での留意点としてまとめたい。

- (1) 左手の伴奏をコードばかりで練習すると、和音でしか伴奏できなくなる。また、コードパターンとして簡略化されるために、楽曲によらず、演奏がパターン化、平坦化してしまう危険がある。
- (2) へ音記号の読譜を敬遠してしまうことを許容してしまうことになりかねない。へ音記号の音符も的確に読めるようにするために、コード奏法は、あくまでも歌唱伴奏練

習の一部として取り入れるべきである。

- (3) 伴奏は、旋律を支えるだけでなく、楽曲ひとつひとつに多彩な色合いを描き出すための重要なパートであることを認識しなければならない。このことを学生たちに説きながら、学習課程の一部としてコード奏法を取り入れることを認識させることが肝要である。

コード奏法による伴奏は、簡易伴奏の一種ともよばれており、よりシンプルな形でピアノ初級者たちを指導する上では効果がある。しかし、保育者育成校にとって最も重要な役割は、幼児教育に携わる質の高い教育指導者を育成することである。コード奏法を活用した効果的な指導をベースにしつつ、豊かな音楽教育の指導者としての資質を学生ひとりひとりの中で育てていくかが重要な課題であると考えられる。

5. まとめ

コードネームに基づくコード奏法をピアノ初級者の指導に取り入れ、子供用ピアノ指導や保育者育成校におけるピアノ指導に活用するアプローチが普及している。しかし、コード奏法による音楽教育や保育者養成指導の有効性は認められているが、教育現場で用いられる教材は、必ずしもコード奏法を適用して指導するのに十分なツールにはなっていないのが実情である。

本論文では、一般的に利用されている教材を使ってコード奏法指導を進めるための具体的な指針と方法を明確にすることを目的として論考した。論考のアプローチとして、コードネームの観点から、幼児の歌唱教材の分析を行った。その結果、主要な幼児の歌唱教材所収の歌唱曲の約99%が、Cメジャー、Fメジャー、Gメジャー、Dメジャーの調性からなり、かつ、代表的な歌唱曲に関しては3コードおよび「3コード+ α 型」のコードパターンからなることを明らかにした。

この分析結果に即して、テキストや楽曲に対して、具体的にコード奏法をどのように導入すべきかを考察した。あわせて、保育者養成校の学生の進度に応じて3段階の指導方法を進めることを提案するとともに、譜例を示すことによって、各段階における効果的な指導法を提案した。

最後に、コード奏法を導入したピアノ伴奏指導を通じて得られる効果と留意点について言及した。コード奏法による伴奏は、簡易伴奏ともよばれており、よりシンプルな形でピアノ初級者たちを指導する上では効果がある。しかし、その反面、歌唱曲ひとつひとつがもつ豊かな音楽性を幼児に伝えるための資質を、学生ひとりひとりの中で育てていく上での課題を看過することはできない。保育者養成校において学生たちを指導する立場にあって、今後ともこの課題に取り組んでいきたい。

【引用文献】

- 1) 松宮, 野田:「ピアノ指導における「コードネーム」の活用」, 九州女子大学紀要, vol.36 (1), p.41 (1999).
- 2) 小笠原:「ピアノ初心者に対する効果的な伴奏法指導」, 広島文化短期大学紀要, vol.40, p.33 (2007).
- 3) 紙屋, 後藤:「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果」, 東京未来短期大学紀要, 第1号, p.67 (2008).
- 4) 白石, 中村:「保育者養成校における音楽指導の研究—第6報—」, 長崎女子短期大学紀要, 第36号, p.37 (2012).